

用語（50音順）	説明
RC造	鉄筋コンクリート(Reinforced Concreteの略)造のこと。引張力に強い鉄筋と圧縮力に強いコンクリートの双方の利点を一体化した構造。
アスファルト防水	高温で溶かしたアスファルトを防水性のある布材と交互に貼り重ねて防水層とする工法。防水工事の中で最も歴史があり、致命的な欠陥が少なく信頼性が高い。
アスベスト	石綿。石材を繊維状に分解したもの。断熱性があり、様々な材料に使用されてきたが、空中に浮遊した微細な繊維が人体へ入った場合、その有害性が問題となり、建築材では使用の規制や除去工事が行われている。
網入り板ガラス	縞などの形の鉄線を挟み込んだガラス。建築基準法により防火性能を必要とする建具に使用する場合もある。
アンカーボルト	コンクリート基礎に鉄骨柱などを固定する場合に用いる埋め込み式のボルト。
アングル	L型の鋼材のこと
ECI方式	プロジェクトの設計段階に施工者の技術力を設計内容に反映させることで「コスト縮減」や「工期短縮」を目的とした方式
浮き	壁や床などで仕上げ材や下地モルタルが剥離している状態。悪化すると部分的に盛り上がって見える。外壁のタイルやモルタルは放置すると落下の恐れがある。
ALCパネル	高温高压で養生した工場生産軽量コンクリート板。床・壁・間仕切りなどに用いるセメントパネル(Autoclaved Lightweight Concreteの略)。
エキスパンションジョイント	増築などをした際に建築物同士を連結せずに接続する方法。ステンレスやアルミなどの金属カバーで建物同士をつなげる。[～金物]
SRC造	鉄骨鉄筋コンクリート(Steel Reinforced Concreteの略)造のこと。柱や梁などの鉄骨骨組みを鉄筋コンクリートで被って一体化した工法。
S造	鉄骨(Steelの略)造のこと。建物の骨組みに、各種鋼材を用いた構造。RC造に比べて、建物自体が軽量で揺れに対しても粘り強いので、高層建築等に多く採用される。
塩害	塩水・潮風、海砂利、海砂などに含まれる塩化物によって生じる被害。コンクリートの破壊や金属の腐食など。
遠隔臨場	動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）によって取得した映像及び音声を利用し、遠隔地からWEB会議システム等を介して段階確認、材料検査、立会を行うこと。
延焼のおそれのある部分	隣地との境界線又は隣接建物の外壁との中間線から、1階で3メートル、2階以上であっては5メートル以内にある部分。外壁の耐火性能などで規制を受ける。道路の場合は道路中心線からの距離による。
OAフロア	床仕上げ材と躯体(床板)との間に配管用のスペースを設けるための床置き床組の総称。高さがおおよそ100ミリ以下をOAフロアという。
押えコンクリート	防水層保護のためのコンクリート
カーテンウォール	建築物の外壁を非耐力壁とし、荷重や衝撃等を支える柱や梁に取り付けるのみとした構法。この構法により、外壁の軽量化が図られ、自重による外壁の損壊を防止するとともに、地震時等においても、建築物のしなりによるゆがみの影響を小さくすることが出来るようになった。一般に、高層建築物において、全面ガラス張りやブレイカストコンクリート製のものが多く採用されている。
カーボンニュートラル	2020年10月、政府から発表された2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすることを目指すという宣言。
笠木	屋上や庇の端の上部に取り付ける部材。防水材の端を押さえつけ、水の浸入を防ぐ。現在はアルミ製が多く使用されているが、ステンレス製もある
ガラリ	換気や目隠しなどのために、壁面や扉に付ける。細い板が何枚も並んだ作りはブラインドに似ている。固定式のもの、可動式のものがある
監理技術者	下請契約の総額が4,500万円（建築一式工事の場合は7,000万円）以上となる場合に主任技術者に代わって配置される。主任技術者の役割に加えて建設工事の施工にあたり、下請業者を適切に指導監督するという総合的な役割がある。（現場代理人との兼務が可能）
既存不適格	建物の形状や性能が、建設策当時の法律には適合していたが、その後の法改正等の内容には適合しなくなった状態。直ちに違反建築とはならないが、大規模改修などを行う場合は、最新の規定に合致した状態にする必要がある。
居室	居住、執務、作業、集会、娯楽その他これらに類する目的のために継続的に使用する室をいう。
躯体	鉄骨や鉄筋コンクリートなどで構成された、柱、床、梁など。内装材や設備は含まない。実際に建物を支えている部分。
クラック	主としてコンクリートに生じるひび割れのこと。乾燥による収縮や、地震力などによって発生する。箇所によっては、漏水などの原因となる。
蹴上げ	階段1段の高さ。奥行きは踏面(ふみづら)という。

軽量鉄骨天井下地	肉薄で細く軽い鉄骨を用いて作られた天井内装ボードの下地となる骨組み。貼り付けるボードの種類や屋外か屋内かの違いによって、骨組みのサイズや間隔が違う。軽天下地などとも呼ぶ。
軽量鉄骨間仕切り	肉薄で細く軽い鉄骨を用いて壁の下地を組み、壁内装ボード等を貼り付けた壁。コンクリート壁に比べて、改修などでの取り付け、取外しも簡単。建物内部の壁に多く用いられる。LGS、軽鉄壁などとも呼ぶ。
化粧目地	意匠上設けられる継ぎ目のこと。
検算	工事費内訳書などを作成した際、間違いが無いか確かめるため、もう一度計算し確認すること。
検図	図面に誤り、もしくは設計不良がないかをチェックすること。
建設業退職金共済制度	建設業を営む事業主が、対象となる雇用者の働いた日々に応じて掛金を納付することにより、その雇用者が建設業で働くことをやめたときに、独立行政法人勤労者退職金共済機構・建設業退職金共済事業本部から直接退職金が支払われる制度。
建築確認申請書（計画通知）	建築基準法第6条第1項における建物の建築又は大規模の修繕若しくは大規模の模様替えをする際、建築主事に「建築確認申請書（国、県等の場合は計画通知）を提出して、設計の内容が建築に関する法令に適合しているか否かの審査を受ける必要がある。
建築面積	建物の外壁またはこれに代わる柱の中心線で囲まれた水平投影面積。ただし、庇や軒などは1m以上突き出した場合は水平距離で1mを差し引いた位置とする。
現場説明書	工事の状況、交通、工事用水、電力、排水、その他条件を記載した説明書。設計図書の一部として、契約書の付属書類となる。
現場代理人	現場に常駐し、その運営、取締りを行うほか、契約に関する事項（請負代金額の変更、請求の解除等を除く）について請負人の代理人として一切の権限を行使する者。
建ぺい率	建築面積の敷地面積に対する割合。都市計画上の用途などによって、上限が定められている。
工作物	高架水槽、擁壁、門、フェンス、自転車置場などの総称。建築物本体、舗装、樹木などは含まない。
工事監理	工事を設計図書と照合し、それが設計図書とおりに実施されているかいないかを確認すること。
鋼製建具	機械室の搬出入口など、強度を要求する扉などに使用することが多い。かつては窓のサッシにも用いられた。屋外に面する場合、腐食による錆や開閉不良に注意する。重量がある。一般に図面での略号はSD(鋼製ドア)。
鋼製軽量建具	軽量の鋼材で作られた建具。一般に内装建具に用いられる。一般に図面での略号はLD(鋼製軽量ドア)。
高置水槽	水道水を貯める為、屋上に置かれたタンク。水をポンプで揚げて一旦タンクに貯め、そこから落下する水の圧力を利用して給水する。上部階は落下距離が少ないために、水圧が低い場合がある。その場合はポンプで加圧している。
腰壁	壁において窓より下の部分を指す。壁の仕上げが上下で違う場合の下の部分の指すこともある。ちなみに、天井より下がっている壁を垂れ壁(たれかべ)。外部に突き出している壁を袖壁(そでかべ)という。
コブリス（COBRIS）	建設物副産物情報交換システムのこと。 「建設工事係る資材の再資源化等に関する法律」により義務づけられている書類の作成を電算上で行うことで記入者の負担の軽減等を図る。
コリンズ（CORINS）	工事実績情報システムのこと。官公庁が公共工事の入札などを行う際に、入札参加を希望する建設会社の工事実績等を確認する場合などに利用する。
繰越制度	歳出予算の経費のうち、その性質上小保は予算成立後の事由に基づき年度内にその支出を終わらない見込みのあるものについて翌年度に繰越して使用できるとする制度を「免許繰越費」という。 一方、当初においては年度内に使用し終わる計画で契約を行ったものの、予算の執行の過程において年度内に使用を終わらない状況となる場合に翌年度に繰越して使用することを「事故繰越し」という。
債務負担行為	通常予算は単一年度で完結するのが原則であるが、1つの事業が単年度で終了せずに後の年度においても「負担＝支出」しなければならない場合には、あらかじめ後の年度の債務を約束することを予算で決める行為。
シート防水	合成樹脂などを原料にしたシートを接着して、防水層にする工法。
CB造	CBとは、2次製品のコンクリートブロックのことであり、このCBを鉄筋で補強した構造である補強コンクリートブロック造のこと。
シーリング材	防水や気密を目的に、外装パネルや接合部分、窓周囲の隙間に詰める合成ゴムや合成樹脂で作られた不定形の目地材。劣化すると固くなる。その場合は詰め替えを行う。シーリング材を詰めることを「シールする」という。
視覚障害者用誘導ブロック	視覚障害を持つ人を安全に誘導するために、その歩行経路に敷かれた、線状又は点状の突起が付いたブロック。
JIS	日本産業規格。日本の建築資材の多くが、この規格を基に製造されている。
資格委員会	工事を発注する上で、入札の対象とする業者のランクや実績の基準または、指名をする企業などを決める委員会。

シックハウス症候群	目がチカチカする、のどや鼻が痛む、めまいがするなどが代表的な症例。建材から放出されるホルムアルデヒド・VOC(揮発性有機化合物)が原因とされており、特に新築や改修直後の建物で起こりやすい。厚生労働省では、健康への有害な影響のない濃度の指針値を定めている。
重要事項説明	設計・工事監理の契約締結時に、建築士が建築主に対し、重要事項（作成する設計図書の種類、工事監理に際して工事と設計図書との照合方法等）について書面を交付して説明を行うこと。
JAS	日本農林規格。建築資材では合板やフローリング材にJAS規格がある。
主任技術者	適正な工事施工を確保するため、施工計画の作成、工程管理、品質管理及び安全管理等を行う者であり、監理技術者を配置する必要がない工事において配置される。（現場代理人との兼務が可能）
受変電設備	電力会社などから高圧で受けた電気を、低圧(100V、200V)に降圧して配電するための設備。
浄化槽	し尿を微生物により分解し、消毒して、敷地外に排出可能にするための設備。地中に埋設されている。洗濯排水などの雑排水も併せて処理する、合併方式が原則とされている。
初期消火	出火後、燃え広がる前に行う消火活動。
伸縮目地	地震や膨張伸縮などによる、躯体や仕上げの損傷を防ぐために設けられた継ぎ目、隙間。数メートルおきに配置し、伸縮による周囲への影響をくい止める。目的により、目地材を詰めている箇所と、そうでない箇所がある。代表的なものとして、躯体に各階ごと設ける打ち継ぎ目地、タイル5メートル程度ごとに設ける目地、屋上押えコンクリートの目地などがある。
ストックマネジメント	保全計画の立案や保全情報の活用によって、保全に要する費用の低減や、環境への負荷軽減など効率化を図ること。
スラブ	水平方向に張られた板状の構造部材で、一般に鉄筋コンクリートの床板をいう。床としてもちいられるとき床スラブという。
スレート	岩石やセメントをベースにした板材。屋根葺き材や外装材として用いる。
施工計画書	工事の品質確保のために実際に施工することを具体的に記載し、そのとおりに施工することを約束するもの。総合仮設計画や安全管理などを全体をまとめた、「総合施工計画書」と工種別に作成した「工種別施工計画書」がある。
施工体制台帳	下請など工事施工を請け負う全ての業者名、各業者の施工範囲、各業者の技術者氏名等を記載した台帳のこと。
設計単価、設計価格	建材のカタログや、見積書に記載されている単価・金額。メーカー・施工業者の希望額であることが多い。設計単価に対して、施工単価、契約単価などがある。
設計図書	建物や工作物、または敷地の工事実施に必要な図面や仕様書その他の書類。
石膏せっこうボード	石膏を主体とした原料を練り混ぜて板状に加工した建材。表面には耐水紙を張り補強してあるが、石膏なので水分には弱い。塗装や壁紙仕上げに向けた表面が平滑なタイプや、模様が付いた化粧石膏ボードと呼ばれるタイプなどがある。壁や天井の内装材として広く使用されている。
ZEB	先進的な建築設計によるエネルギー負荷の抑制やパッシブ技術の採用による自然エネルギーの積極的な活用、高効率な設備システムの導入等により、室内環境の室を維持しつつ大幅な省エネルギー化を実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、エネルギー自立度を極力高め、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを目指した建築物。
ZEH	外皮の断熱性能等を大幅に向上させるとともに、高効率な設備システムの導入により、室内環境の室を維持しつつ大幅な省エネルギーを実現した上で、再生可能エネルギー等を導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支がゼロとすることを目指した住宅。
損料	費用算出に関する用語のひとつ。工事に必要な機材やそのメンテなどの費用について、耐用年数の間に元を取るために、その工事の中で機材費としていくらか必要かを示した額。一般的には、作業費単価の中に含まれていると考えて良い。
耐火被覆	鉄骨の柱や梁などを、火災による熱から守るための保護材。耐火性の板材で囲う方法と、軟質の素材を鉄骨に付着させる方法がある。建築基準法では耐火時間に応じて厚さ等が告示で定めている。
耐力壁	建物の自重や積載荷重、地震による震動などを支える目的で設けられた壁。窓が無く、四方を柱や梁に囲まれた壁が、この役割を持っていることが多い。対して、非耐力壁は単に空間を仕切るための壁。改修などの際、耐力壁かどうかによって、壁が撤去可能か否か分かれることがある。
タイルカーペット	カーペットを部分取外しが可能なサイズに分割したもの。50センチ角の製品が多い。接着剤やピンを問わず敷くだけで設置完了なので、配線変更作業のあるフリーアクセスフロアにも向いている。
立上り	床や屋根などから垂直に折れ曲がって上方向に伸びた部分。あるいはその高さ寸法。 ＜防水～は屋上床から350mm＞
タラップ	屋上や地下部分に移動するための固定金物。
垂れ壁	開口部などの上にある天井から垂れ下がったような形状の壁。
地質調査	建築物の建設をする際、その地盤に最適な工法を設計するために必要な地盤の地質構造や工学的性質の明らかにするための調査。
地盤変動影響調査	工事の施工に起因する地盤変動により、建築物等に損害等が生ずるおそれがあると認められる場合に、工事着手前や施工中に行う建築物等の調査、並びに工事の施工に起因する地盤変動により損害が生じた建築物等の状況の調査。

中性化	本来アルカリ性であるコンクリートが、空気中の二酸化炭素等により中性になってしまうこと。鉄筋の錆を防ぐ機能を失う。
中長期保全計画	建物を経済的・効率的に維持していくため、修繕や機器更新などのプランを、中長期的視野に立って取り決めたもの。
電気工事士	電気工事を行う際に必要な法律上の資格。
電気主任技術者	自家用電気工作物を所有する場合、その安全な運用のために、電気主任技術者を選任し保安業務を行わせなければならない。特に大規模な施設でない限り、電気保安協会等に委託することが出来る。
樋	屋根の雨水を集めて排出するための通り道になる部材。設置箇所により、溝型や円筒状などを使い分ける。固定している金物が壊れると、途中で水がこぼれて正しく流れなくなる。
動力制御盤	動力設備(空調や給排水設備など)の運転操作と回路機器の保護を行う。異常時には警報を発する。一般的に空調機械室にある。
特殊建築物	学校、病院、ホテル、共同住宅、などのように不特定又は多数の人が利用する建築物若しくは、防災上、環境衛生上、周辺地域に大きな影響を与える建築物。事務所(庁舎)はこれに該当しない。
特定行政庁	建築の許可や、違反に対する是正命令などの権限を持つ。建築主事を置く市町村にあっては当該市町村の長をいい、それ以外の地域は都道府県知事をいう。
塗膜防水	塗布した液体が硬化することにより、防水皮膜を形成する防水方法。
ドライエリア	地下に部屋がある場合に、採光、換気、機械搬出入などのために、地下外壁廻りに設ける空堀。
トラス	三角形の組み合わせを基本とした骨組み構造。木造や鉄骨造の屋根などにおいて、効率的な構造として多く採用されている。
トラップ	悪臭や不衛生な物質などが、排水管を逆流して上がってくるのを防ぐ装置。代表的な例として、手洗いや器の下部の配管を湾曲させたS型トラップがある。常に水が溜まる仕組みにすることによって、臭いなどの遡上を防ぐ。
ドレン	雨水や雑排水などを排水管へ導く管や溝。冷暖房設備から発生する結露水や蒸気の水滴の排水管。
鉛	鉄鋼面などの塗料に含まれていることが多い。毒性があるため、適切な方法で処理を行う必要がある。
熱線反射板ガラス	日光を多く反射し、室内側の温度上昇を抑制することが出来るガラス。明るい側からはミラー状に見える。表面に金属膜が付いている。
延べ床面積	建物各階の床面積を合計したもの。一般に建物の規模を表す場合はこれを用いる。
ノンスリップ	階段の先端部分に付ける滑り止め用の部材。一般的には金属製の品が使われる。ゴムをはめ込んだタイプもある。タイル張り階段の場合、表面に突起などがあるタイルを用いる
パイプシャフト (PS)	配管を通すために、各階を貫通して設けられた縦穴。点検のための扉が、各階の廊下や階段にあるのが一般的。
はつり	コンクリートなどを削り落とすこと。劣化した部分を取り除く場合などに行う。「はつる」ともいう。
ハト小屋	屋根を貫通して、屋上に突き出た配管を覆うための小さな上屋。
幅木	壁の下端に設けられた板状の部材。靴がぶつかった事による損傷を防ぎ、また壁端部の見た目を整える。木製やビニル製など、部屋によって材料が違う。
パラペット	屋根端部よりの漏水を防ぐため、屋上で壁を立ち上げた部分。上端には笠木を設けることがある。
PFI方式	公共事業を実施する際、民間の資金と経営能力・技術力を活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う手法。
PCB	ポリ塩化ビニフェルのことで、変圧器やコンデンサー、蛍光灯安定器などに含まれている場合が多く、毒性があるため、建物所有者が処理をすることとなっている。
ピット	穴、くぼみのこと。配管や配線を土中に埋設するコンクリート等の溝。トイレ等の床下に設けられる配管メンテナンス用の空間。
ひび割れ誘発目地	ひび割れが起こる部分として、壁に設けられた目地。地震力やコンクリートの乾燥収縮などによってコンクリートの壁にはひび割れが起こるが、外観上、機能上の理由からその位置をコントロールするために設ける。
VE	製品・資材サービスのコストと機能を研究することにより、図面や仕様書の変更、製造方法の効率化、発注先の変更などを行い、コストを低減する組織的な活動のこと。求める機能を最小のコストで得ることを目的としている。
フィックス窓	開かない窓。はめ殺し窓。
踏面	階段の足を載せる水平部分。あるいはその奥行き寸法。
フリーアクセスフロア	二重床の一種。床下に配線・配管などを通し、必要に応じて自由にルートの変更をすることが出来る。支柱タイプと置き敷きタイプがある。OAフロアもこの一種。
分電盤	1本の幹線で送られてきた電気を、各部屋や系統ごとに遮断器で、各照明器具やコンセントに分配するために設置された盤で、銅製などの箱に入れられ廊下、部屋の隅、または電気配線室(EPS)などにある。
ヘアクラック	コンクリートなどに発生する、幅1mmにも満たない微細なひび割れ。
防煙区画	火災時に煙の拡大を防ぐための区画。防火戸や垂れ壁などで区画する。

防煙垂れ壁	火災時に煙の流れをせき止めるため、天井から50cm程垂れ下がっている壁。エレベータホールの天井に付いている透明の板などがこれにあたる。
防火区画	火災の拡大を防ぎ、避難経路を確保するための区画。
防火ダンパー	空調用または換気用ダクト内に設けられた扉のようなもの。火災時の熱で閉鎖され、ダクト内に流れる炎を遮断する。
防火戸	火災の拡大を防ぐための戸・窓。火災時の正常な動作を確保するため、動きを妨げるような位置に荷物等を置いてはならない。常時閉鎖(常閉)されているものと常時開放(常開)されているものがある。
防水	水の浸入を防ぐこと、またはその手法の総称。例として屋上全面を覆う遮水被膜や、シーリングなどがある。
法定福利費	企業が従業員に提供する福利厚生の中で、法律で義務付けられているもの。 具体的には、健康保険料、厚生年金保険料、会后保険料、雇用保険料、労災保険料、子ども・子育て搬出金の企業負担分が該当する。
間仕切り	建物の空間を仕切るものの全般を指す。壁をはじめ、家具やカーテンも間仕切りとして扱われる。
マスターキー	施設内の全ての錠に使用できる鍵。施設管理者が管理するのが一般的。
水切	雨水が窓の下端などを伝い流れて、汚れや浸水の原因となるのを防ぐため、金物あるいは小さな溝を付け、伝い流れを防ぐもの。
水勾配	雨水や汚水の排水のために屋上、床、樋などにつけた傾斜。
メンテナンスフリー	メンテナンスを必要としない、または簡単な作業で済む建材や工法。
モルタル	セメント、砂、水を練り合わせたもの。仕上げ材として、あるいは接着剤として使われる。
約款	事業者が顧客などといった不特定多数と同じ契約をする際に用いる、定型的な契約条項のこと。
養生	汚れや損傷また、コンクリート打設時などに対する、作業箇所周辺の防護。仮設の間仕切り壁を設けたり、シートを被せたりする。
予防保全	計画的、定期的に対象の点検、試験、調整並びに修繕を行い、故障などを未然に防ぐために行う保全。中長期的視野での保全費用を低く抑えるためにも重要。
ラーメン構造	骨組み材同士の接合部が固定された構造。柱と梁がある形式がこれに当たる。対して柱梁が無く、壁の組み合わせで支えられた構造を壁式構造という。
ライフサイクルコスト	建築物などの企画、設計からそれを建設し運用した後、取りこわしするまでの間に費やされる費用。このうち約7割が運用段階での費用といわれる。(Life Cycle Cost = LCCと略されることもある。)
ライフサイクルCO2	建築物の建設から運用、解体に至るまでに排出される二酸化炭素の総量。日本の二酸化炭素排出量のうち、およそ25%が建築物の運用時に排出されているもの。いかにしてこれを低減するような設計、管理をしていくかが課題。LCCO2と略されることもある。
リース資材	リース会社から借りて使用する建設用資材。作業足場がその代表例で、足場を長期間設置すると、作業をしていなくてもリース料だけで費用がかさむことになる。
履行期間	業務委託の始期から終期までの期間のこと。準備期間、作業期間、納品期間、その他業務履行上必要な日数を加算した合計。
リシン	砂状の外装吹き付け材。宿舍などの外壁仕上げで昔はよく見かけた、ザラザラした塗装。
リノベーション	劣化した建築物(設備を含む)の機能、性能を社会のニーズに対応して初期の水準以上に改善改良すること。広義には修繕、補修を含める。
ルーバー	壁や天井の開口部に設けるブラインドの羽根のような板材。角度や形状を変えることで屋内への通風や日射を調整する。屋上で空調機器を囲っているものは目隠しルーバーといい、周囲から機械を隠しながら、風の通り抜けを可能にしている。
ルーフドレン	屋根の雨水をといに流すために設けられた排水金物。土埃などで詰まらないよう、定期的な清掃が必要。
レベル	敷地の高低差を表す際に基準となる高さ。または測量に使用する器具の呼称。
漏電	本来流れるべき電気回路以外に電流が流れること。電気設備の劣化や施工不良が原因。電気火災や感電事故のもととなる。
漏電遮断器	回路内の漏電電流を検知し、漏電している回路を遮断する。動作テストボタンで、定期的な動作確認をする。
労務歩掛り	作業ごとにどれだけの労働量が、単位面積当たりで一般的に必要なかを表した数値。単純にいうと1日の労働のうちの、その作業時間の割合であるが、作業効率や必要人数によって大きく異なる。
露出防水	防水層を覆う保護層を設けず、防水層の表面が露出した防水形式。歩行の際には、傷を付けないような配慮が必要。
ロックウール吸音板	ロックウールを板状に成形したもの。吸音効果のある内装材として用いる。

《参考》国土交通省九州地方整備局営繕部"言葉の意味"

[http://www.qsr.mlit.go.jp/n-tatemono/hozen\\_word.html#word\\_ra](http://www.qsr.mlit.go.jp/n-tatemono/hozen_word.html#word_ra)